

消火栓（消火栓ボックス）

取扱マニュアル

はじめに（注意事項）

- ① 消火栓は、初期消火に有効な手段です。
消火活動を行う際は、「慌てず、急がず、落ち着いて！」行って下さい。
- ② 消火栓及び消火栓ボックスを使用する際は、付近の交通状況に十分気をつけて下さい。
- ③ 消火栓の使用は、必ず2人以上で行って下さい。
- ④ 放水を開始する際は、消火栓ハンドルを回し、ゆっくりと開けて下さい。
- ⑤ 放水を終了するときは、消火栓本体のバルブを必ずゆっくりと閉止して下さい（急激な閉止は、水道水の濁りや配水管の破損の原因になります）。
- ⑥ 消火栓の水は、消火以外の目的では使用しないで下さい。また、水道管と共用している消火栓を開けると、水道水が細かい空気の泡で白く濁ります。



平成26年5月27日改訂版

九度山町地域防災課

1. 消火栓の種類

消火栓は、地下式と地上式があり、本町は、地下式を採用しています。以下の写真が、九度山町の地下式消火栓です。

なお、火災時の初期消火等に使用出来るよう、車両の駐停車には注意して下さい。



角型



角型(新)

2. 消火栓ボックス

消火栓ボックスの中には、ホース2～3本（1本20メートル）、消火栓ハンドル1本、筒先1本が格納されており、火災時の初期消火等に対応できるようになっています。緊急時、すばやい対応が出来るよう、日頃から使用方法を確認して下さい。



消火栓ボックス



収納物

3. 蓋の開け方（角型と角型新）

消火栓ハンドルの先を蓋の穴に差し込んで、テコの原理で蓋を浮かせ、ある程度浮き上げたら、両手で蓋を持ち上げます。蓋は非常に重いので、足や手を挟まないようにして下さい。皮手袋等を使用するのが取り扱いが望ましいです。また、蓋を開けた際、穴に転落する恐れもありますので、十分に気を付けて下さい。

なお、角型（新）以外の蓋は、消火栓ハンドルを用いず開けることが可能。



角型



角型（新）



角型及び角型（新）



ボールでボタンを押しながら、差し込む



蓋はとても重たいので、要注意

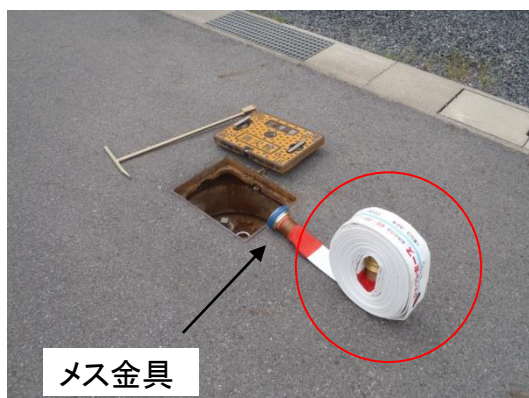
4. 消火栓ハンドルの結合

消火栓ハンドルの穴と消火栓の中にある差し込み口を以下の写真のように結合して下さい。



5. ホースの配置

ホースは、火災現場までの距離に応じて必要本数を使用します。ホースを取り出したら、以下の写真のようにホースを立てて、延ばします。その際、メス金具を（右）足で踏んで、ボーリングの様に前方へ転がすように延ばします。なるべく、消防車両の消火作業の支障にならないよう、ホースの配置にご注意下さい。



6. ホースの接続

まず、メス金具とオス金具を接続させます。以下の写真のようにオス金具の首部分を右足で踏んで起こさせ、メス金具を上から差し込んで、「カチッ」と音がしたら、接続完了です。一度引っ張ってみて外れないことを確認して下さい。



オス金具

メス金具



ホースの結合

7. ホースと筒先の接続

次に筒先を接続させます。筒先を接続させる場合は、以下の写真のようにホースのオス金具の首の部分を（右）足で踏んで起こさせ、筒先を上から差し込んで、「カチッ」と音がしたら接続完了です。同様に確認して下さい。



8. 消火栓とホースの接続

消火栓の放水口に、ホースの受け口金具を接続します。この際、きちんと接続できているか確認します。



9. 放水

全ての接続が完了したら、「放水始め」の合図で差し込んだ消火栓ハンドルを、ゆっくり反時計回りに開放していきます。水の圧力は、思ったより強いので、以下の写真のように小脇にかかえ、筒先はしっかりと持ち、放水して下さい。

反時計回り



ゆっくりと回す



力の弱い方は補助員と一緒に

注意

道路交通法第45条第1項により、消火栓及び防火水槽から半径5m以内は駐車禁止となっています。